

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月27日

【評価実施概要】

事業所番号	4572100578		
法人名	有限会社メープルウェルフェアサービス		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	宮崎県延岡市北川町川内名8307 (電話) 0982-46-2338		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年1月14日	評価確定日	平成21年2月27日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

宮崎県の最北端に位置し、すぐ隣は大分県になる。山と川に囲まれた自然に恵まれたログハウスの建物が地域の中心部にある。ホームの理念である「笑顔で寄り添う支援」の意味を全職員が理解し、毎日研さんを重ねている。利用者が心穏やかに暮らすためには、職員一人ひとりが幸せであるべきと、管理者や職員の思いがある。職員間の融和と思いやる心を育てるため、サンクスカードを業務に取り入れている。「ありがとう」を感じる心を大切にホームのサービスの質の向上に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 運営推進会議については、前回4か月ごとの開催から2か月に1回に、外部の苦情受付窓口も重要事項説明書に明記されている。玄関の施錠については、改善には至っていない。自然環境を勘案して安全を確保するため、住民や消防署、関係者などの協力をいただく取り組みを開始している。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 管理者、職員は、評価する機会を与えられることが重要と考えている。煩雑な業務におわれ、おろそかになりがち支援を見直すいいチャンスととらえている。また、あらためて利用者向き合うことで、利用者との距離が近くなり見えてくる事柄を業務に反映させている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 災害対策や苦情処理について検討している。いろいろな意見をもとに地域密着型ホームと住民との連携の取り方を構築し、災害時の利用者の安全確保につなげている。また、ホームの行事や職員の質を高めるための研修などを報告している。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 管理者や職員は、家族の意見、苦情が発言しやすい行動や環境を整えている。このことは、運営推進会議にも協力をお願いし、その意見を生かしている。まだ家族会の設立には至っていないが、発足することで、家族の意見を運営に反映させたいと考えている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 勤務している職員は、地域の住民がほとんどという特徴がある。そのため地域との連携は深く、特に、近隣の住民とは家族的なつきあいをしている。地域の祭りや運動会にも招待を受け参加している。地域の文化祭には利用者の作品を出品し、グループホームや利用者を理解していただくように努めている。

【情報提供票より】（平成20年12月17日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成14年11月2日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤12人, 非常勤1人, 常勤換算6.17人	

（2）建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建て	1～2階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,800 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	211 円	昼食 211 円
	夕食	211 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

（4）利用者の概要(平成20年12月17日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	2	要介護2	6		
要介護3	5	要介護4	5		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 83.1歳	最低	73歳	最高	95歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	伊井内科医院
---------	--------

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の幸せを守りたいという管理者と職員の思いから、理念の見直しが行われている。心穏やかで安心安全な居場所とは、心からの笑顔で寄り添うことを基調にしている。理念に「笑顔で」を加えて、日々努力している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者と笑顔で触れ合えるホームの雰囲気は、職員間のチームワークを必要とする。ミーティングやホーム内研修等において、常に理念を復唱し合い、実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員は、ほとんど地域の住民が採用されているため、地域とのかかわりが深い。地域の行事への参加、散歩や買い物での交流、また、農作物が届けられる関係を築いている。住民は、利用者を見守り、徘徊を防止する役割も担っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は、この評価を理念の原点にもどれる必要な機会だと理解している。実施している業務を違った目線で見るとの評価は、刺激であり、気づきをもらっている。見直しの良い機会として、サービス支援の改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4か月に1回の運営推進会議を2か月に1回に改善した事から、更に、多くの意見交換をもらう機会が増え、ホームの理解が高まっている。現在、医療関係者や地域の民生委員、消防関係者等多くの職種への参加を呼びかけ、ホームのサービス向上に努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	延岡市に合併した事で、役場と市役所の人事交流が進み、今までよりも中央の情報が支所に入りやすくなった。ケアマネージャーは、行政職員との情報交換を頻繁に行い、ホームのサービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時には、健康に関する事、暮らし向きの事を報告している。また、ホーム便りでも、日常生活のスナップ写真や行事の様子を送信している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、苦情、不満が管理者や職員に、気軽に発言できるように、管理者や職員の言葉遣いや行動を改め、気軽に話せる雰囲気づくりに努めている。また、重要事項説明書と玄関等には外部の相談窓口の表示をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職の際には、利用者の集まる時間を利用して、いつでも会えることを説明している。離職者も、時々訪問しては利用者とのコミュニケーションを取る協力もしている。ホームはできるだけ、なじみの職員の異動を最小限に抑えるために、職員間の対話を心がけている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム外の公的研修の参加はもとより、日々の業務で起こる課題を一つひとつ取り上げトレーニングし、職員の質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の事業所間の意見交換を定期的に実施している。また、地域の同業者はもとより、県南、県央の特徴あるホームとの交流を深め、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や利用者が安心して、納得した上でサービスを利用できるように、利用希望者や内定者に、見学や体験を行い、親しみある関係を築きながら、徐々になじめるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に利用者の思いに寄り沿いながら、個人ごとの能力を引き出す役割を持たせ、一方職員は、利用者とは会話することで心穏やかな癒しをもらい、昔の郷土料理や、行事食を学び、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしぶりから、一人ひとりの希望や思いを引き出すように努めている。また、来訪時には家族を交え検討をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人はもとより、家族の意向、関係者との話し合いで、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に、6か月ごとに見直しを行っている。見直し以前に対応できない変化が生じたときは、随時、本人、家族、必要な関係者と話し合い、状況に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設したデイサービスや2つのユニット間での交流がある。来訪した家族へのお茶の接待、受診や外出時には、利用者の意向に沿った個別対応として、レストランやデパート巡りの支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の納得が得られたかかりつけ医との関係を密にするために、できるだけ面会の機会を作っている。高齢化した利用者が適切な医療が受けられるように、本年度は月1度、かかりつけ医がホームに往診する状況を新たに設定し、支援の枠を広げている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの立地条件が厳しいことを念頭におき、可能な限り重度化や、終末ケアに対応できるように、家族の意向と職員の勤務体制等を全員で検討し、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応は、人格を尊重するものであるように心がけている。排泄や入浴の誘導時の対応も、プライバシーの配慮がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに沿った見守りがされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて、職員と一緒に準備や食事、片づけがされている。食卓では、今日の献立について、楽しい話題が飛び交い、次から次に話題が広がり楽しむことのできる支援になっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望やタイミングにあわせた入浴支援が行われている。歩行困難者にも、湯舟でゆっくり入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園には、葉ものや根菜類の野菜が植えられ、利用者はその管理を楽しみにしている。山間の野菜畑には、いろいろな動物が出没するため対策を要するが、利用者にとっては、楽しみと気晴らしになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	山間では、季節の移り変わりが顕著で、四季折々の変化が楽しめるため、散歩支援が多い。個別対応の夕食、買い物、ドライブと戸外支援もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害は理解しているが、玄関には鍵がかけられている。川と山に囲まれ景観の優れた環境だが、徘徊時の水難・遭難事故への回避目的のため施錠している。利用者の外へのアプローチが見られる時は職員が必ずそばに付いて行動をしている。	○	運営推進委員会や行政に問題を提起したり、近隣の住民の協力を得ながら、現状の不安を解消する対策に取り組まれることを望みたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や家族との連携はできている。2階からの避難のためのリフトも設置され、避難訓練や消火器の配置もしている。次年度には、スプリンクラーの設置も検討している。	○	立地上、台風による水難災害や火災に備えての夜間防災訓練の必要性和、近隣や地域住民との応援体制が組織化される事が望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂食機能に応じた食事形態で対応している。また高齢者に起こりがちな脱水予防のため、水分摂取量を記録し管理している。厨房は、整理され、食中毒予防対策として、食器や台ふき等は、キッチンハイター、オスバン液等で消毒管理がされている。	○	健康管理のバロメーターである体重や、年1回の健康診断のデータ等も、健康管理の個別対応として生かしていただきたい。また、利用者の年齢に見合った摂取量の確保のため、行政の栄養士を活用し目標量を設定してもらい、献立を作成されることを望みたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダに出ると、せせらぎや鳥のさえずりが聞こえる静けさで、騒音が全くない。ホームは頑丈なログハウスで空間も広く、多目的を兼ねたリビングではゆっくり過ごせる。室内は自然の明るさや暖かさを取り込み、利用者の団らんの場所になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内も、木作りで温もりが感じられる。使い慣れた持ち物が置かれ、居心地よく過ごす事ができる工夫をしている。		

※  は、重点項目。